

企業名

上代工業株式会社

代表者名

上代 正勝

設立年月日

昭和46年11月17日

資本金

5,000万円

従業員数

35名

所在地

〒213-0006

川崎市高津区下野毛1-11-23

TEL. 044-811-8181

FAX. 044-811-8133

-

info@kamishiro.co.jp

事業テーマ

エレベーター部品の材料
切断から穴あけ加工まで
工程を一貫生産すること
による短納期の実現



取材を担当していただいた上代 健一氏

一貫生産体制

新規設備を導入することにより外注加工に頼っていた機械

補助金を利用する 補きっかけは？

現在当社の事業の中心は、建設現場に対応したエレベータの部材の調達です。社内の技術としては中厚物を、曲げる・溶接するなどの板金加工を得意としているのですが、実際の部材は、大きな金属板から適切なサイズの板を切り出し、曲げ・穴空け・溶接加工が必要となるので、これまで曲げる・溶接以外の切削加工は、外注で対処してきました。発注先としては、加工工程毎に発注先を変えることを嫌うので、一部の工程を外注せざるを得なかったんです。

その結果、外注先への移動などにより、納期の短縮化に限界がありました。以前からこの問題には気がついていて、なんとか内製化できないか考えていたんですが、これまで経験の無い技術の導入・機器の投資という段になると、やはり躊躇

せざるを得ませんでした。そこに、川崎市の産業振興課からの案内を見て、資金援助があるのならば、加工機の導入が可能と判断して、応募することになりました。さらに認定支援機関でもある川崎信用金庫でこのものづくり補助金の応募書類の書き方に関するセミナーを受講することになり、実際に応募したわけです。

エレベータ部 材の調達と 短納期の要請の 関係は？

ビルを建設するときは、設計図があるので設計図通り又は規格があって規格通りの寸法で部品を作れば良いと思われるかもしれませんが、実際は、建設現場毎の調整が必要なのです。主な



▲従来の穴あけ加工

の構築により短納期化

加工の内製化が可能となり、顧客からの強い要望があった短納期化を実現することができた。



▲補助金で購入したマシニング装置

理由は、コンクリートが乾燥していく過程で、収縮の程度が違ってくるため、ほんの数センチ程度ですが、違ってくるのです。

つまり、当社のエレベータ部品は、現場があって、そこにエレベータを設置する直前に現場で実測した長さに合わせて、部材のサイズを調整して納品しなければならないのです。場合によっては、現場に職人さんが集まって、作業が始まったりしています。

実際に短納期 実化は実現で きたのでしょうか

機械導入直後は確かに慣れていない面もありましたが、補助事業期間中の試験的作業を進めた後、事業終了後に少人数体制ではありますが、機械加工部門を立ち上げ、納期は半減することができています。加工の複雑さも関係してきますが、場合によっては部材の

寸法を頂いてから、当日納品をしたケースもあります。確かに加工内容が複雑になると3日ほどかかる場合もありますが内製化の効果は絶大だと感じています。

ただ、熟練度がまだ不十分なためもあるのですが、部材の量・複雑さとのバランスで外注の方がコスト的な面など、全体的なバランスを考えて外注を使うケースは多々あります。熟練度を含めたこの辺については、今後の課題と考えています。このような取り組みを、顧客からも評価され、受注も増えてきているだけで

はなく、機械加工と溶接を一貫受注できるので、新たな需要を取り込むことが可能になると考えています。

神奈川で事業所 があることに 有利な点

建設ビルのエレベータ部材を中心に営業していますので、なんと言っても首都圏の配達を考えると、建設現場に直結しているという点で有利です。納品先は、現在、都内を中心として、神奈川、多摩、静岡、千葉を範囲にしています。これは、神奈川と言うよりは、川崎という地理的利点と言えると思います。これらの範囲のほぼ中心に川崎がありますから。

以前、他県の事業者の方から、首都圏は土地代が高い（固定資産税）など、経費が掛かるので、その部分を単価に反映せざるを得ないだろうという意見を頂いたことがあります。そのような面は確かにありますが、エレベータ部材という分野に関しては、それにもまして現場直結という利点が大きく貢献していると考えています。

企業概要

昭和43年都内大田区にて板金加工業を設立後、昭和44年2月に川崎市、さらに昭和48年8月に現在の場所に移転。レーザー加工機の導入、レーザーパンチ複合加工機システムラインの導入などを経て、今回の補助金を利用し、マシニング装置の導入を行った。エレベータの部材など中厚物の板金加工を得意としている。エレベータの安全性を考えて、溶接技術者には国家資格（JIS検定）を取得させるなど、技術の維持・向上に力を入れ、川崎という立地ということで、都市型板金加工の可能性を追求している。近年、東京スカイツリーのブラケットを手がけた他、3DCADを使った加工技術で展示用の恐竜全身骨格の製作も手がけるなど、業容も拡大しつつある。